



人の気持ちを考えて

八千種小学校6年(当時)

宇崎睦望

最近、私の周りでは

「死ね。」

「ウザい。」

など、相手を傷つける発言をしている人が多くなってきています。そんな言葉を聞くと、私が言われているわけではないのに、いやな気持ちになります。

私も、何回か「死ね。」と言われたことがあります。下校中、班長の私をぬかした子がいました。

「ちゃんとやらんで。」

と言っただけなのに、

「死ね。」

と言いつ返されました。なぜ、そんなことを言うのだろうと、悲しくなりました。後で、あやまってくれたけれど、悲しい気持ちが残りました。そんなに簡単に「死ね。」と言わないでほしいと思いました。

全ての人は、傷つけられたり、

いじめられたりしない「人権」を持っています。「死ね」という言葉は、その人権を傷つけるひどい言葉の一つです。この言葉を言われ続けたせいで、学校に行けなくなったり、自殺してしまったりする人もいます。

インターネットで調べてみると、二〇二三年は、二万八十八人の人が自殺でなくなっていました。そして、十五才から三十一才の各年代の死因の第一位は「自殺」となっています。

その中でも、小中高生、つまり私たち子どもの自殺が、ふえ続けているそうです。

赤ちゃんが無事に生まれてくる確率は八五パーセント。つまり約五人に一人は、生まれてくることすらできません。私たちの命は、とても大切なものなのです。それなのに、なぜ、簡単に「死ね」などと言えるのでしょうか。世界でたった一つの命なのに。

なぜ、そんなことを言うのか、一度、周りの子に聞いてみました。「言っただけです。」

「ふざけて言っている。」

「八つ当たりみたいな感じ。」などの理由がありました。その中でも一番多かった理由は、「思わす口から出てしまう。」というものでした。言う人は本気で死んでほしいと思って言っているわけではありません。けれど、言われた人は、とても悲しい気

持ちになります。真に受けて、自分なんかいい方がいかな、死んだ方がいいかな、と思ってしまう人が、いるかもしれせん。そうすると、大変なことになります。

次に、そういう発言をする人に対して言われた人がどう思うかを聞いてみました。「なぜ、そんなことを言えるのか分からない。」「おかしい。」「近づくに。」「人のことを考えていない。」「なんか、悲しくなる。」という意見がありました。

だから、人を傷つけるようなことを言っていたら、人がはなれていくし、信用できない人だと思われます。感情のせいぎよがでず、にそういう言葉を使ってしまうと、言っている本人も困ることがたくさんあると思います。

言葉一つで、人間関係がよくなることもあるし、悪くなることもあります。仲がいい人であつても、相手の気持ちを考え

て話すことが必要です。私は、言葉で相手を傷つけるのではなく、言葉で相手を笑顔にできる人になつていきたいです。

ちがう「当たり前」

田原小学校6年(当時)

松田倫東

ぼくは学校が大好きです。勉強は別に好きではないけど、友

だちと遊んだり、話したりできる学校は大好きです。そんな学校へ行くことを、ぼくは当たり前だと思っていました。休む時は、かぜをひいたりして体調が悪い時だけだと思っていました。

五年生になつてすぐ、気分が悪くて学校に行きたくても行けなくなりました。行こうと思うのに、気分がずっと悪いままで、学校へ行く日はほとんどなくなりました。そして、家で過ごす日がどんどん増えていきました。

家にいる間、学校のみんなは何をしているのかなとか、ぼくはこれからどうなるのかなとか、いろんなことを考えて、どんどん不安になつていきました。学校へ行くのが当たり前だと思っていたのに、ぼくにとっては家にいることが当たり前になつてしまいました。

先生や友だちのことを考えると、もっと不安になりました。学校へ行かないぼくを悪い人だと思つていかな、なまけ者だと思つていかなと、こわくなりました。

そんな風に過ごしていると、すごく気分は悪いけれど放課後に少しか保健室へ行くようになりました。その時に、保健室の先生や担任の先生、校長先生はぼくのことを、

「よく来たね。」と受け入れてくれました。みんなとちがう時間にしか学校へ行けないぼくを、変な目で見ずに受け入れてくれました。

友だちも、ぼくのことを見かけると、

「おう。」とか、

「また遊ばな。」と、今までと変わらずに話しかけてくれました。みんなと違う毎日を過ごしているぼくを、先生も友だちも受け入れてくれました。

毎日学校へ行くのが当たり前だつたぼくと、毎日学校へ行けないことが当たり前になつてしまつたぼくを、変わらず受け入れてくれたことがとてもうれしかったです。

ぼくは今、学校へ行くことが当たり前毎日を過ごすことができています。でも、世の中にはぼくとはちがう、いろんな当たり前の毎日を過ごしている人がいます。これから自分とはちがう当たり前を過ごしている人と出会つても、ぼくはその当たり前を受け入れたいと思います。

人権標語

相手が傷つく 言葉の刃をおさめよう

福岡小学校4年(当時)

橋本実乃里

生活科学 センター だより

令和7年度兵庫県内の 消費生活相談状況

兵庫県内の令和7年度消費生活相談状況が発表されました。相談件数が前年から13%も増加しており、神崎郡内も増加率や内容は、ほぼ同じ状況です。

1 契約当事者年代の状況
苦情相談における契約当事者の年代をみると、60歳以上が全体の45・5%を占め、苦情相談に占める高齢者の割合は増加傾向にあります。

2 定期購入トラブルが増加
定期購入に関する相談は、前年度の約1・4倍です。

定期購入とは、同じ商品やサービスを定期的に購入することです。消費者にとっては、毎回注文しなくても、定期的に商品が届くのもとても便利です。

しかし、販売業者等の誤認させるような表示（「初回」

「お試し価格」などにより「1回限り」と誤認して申込み、1か月後に同じ商品が定価で届くというトラブルが多くなっています。

特に化粧品が前年度の約2倍、次いで健康食品で、この2品目で約9割を占めています。また年代別では60歳以上が65・4%と、高齢者がトラブルに遭うケースが多く見られます。

3 通信販売（インターネットや電話、ハガキで申し込む）で商品等を購入したトラブルになったケースが最も多く、前年度から約2割の増加となりました。

前述の定期購入トラブルのほか、「ネット広告を見て商品を買ったが、届いた商品は広告とは異なる粗悪品だった」「インターネットで商品を購入し代金を先払いしたが商品が届かず、販売業者から『欠品しているので〇〇ペイで返金する』と連絡してきたが返金がない」など詐欺的な相談が多数寄せられました。

中には〇〇ペイでの返金を案内され、指示どおりにスマホを操作した結果、逆に送金させられる被害もありました。4 依然として多い「もうけ話」に関するトラブル

「簡単にもうかる投資」や

「スキマ時間に稼げる副業」など「もうけ話」に関する消費者トラブルが依然として多く寄せられています。インターネット広告をきっかけとして契約に至るケースが多く、高額なサポート費用を請求され消費者金融で借り入れて業者に支払ってしまふ事例もあり、若年層では消費者金融での借り入れ、中高年層では高額化の傾向が見られます。

5 その他の事例

■クレジットカードの利用明細に身に覚えのない料金があった。

■「自宅でインターネットを使う時に Wi-Fi i 回線につなげば、電話料金が安くなる」と電話があり、契約したが安くならなかった。

■夜にトイレが詰まり、「2千円」という修理サービスの広告を見つけて電話をかけた。作業後約20万円請求され支払った。

消費生活の相談や問い合わせ、苦情は、神崎郡消費生活中核センターへ

(☎ 22・4977)

秘密厳守
相談は無料
相談日時

火・金曜日
9時～16時
(月曜日は休館日)



田原小学校3年(当時) 圓滿陽依



福崎小学校2年(当時) 小林加奈



福崎東中学校2年(当時) 志水楓和

こわさないで 自分の心
人の心

田原小学校4年(当時)
川上泰正

見逃すな 一人の本音と
その涙

福崎東中学校3年(当時)
安達咲希

違いこそ 力にできる
第一步

福崎西中学校3年(当時)
藤原莉乃



福崎西中学校2年(当時) 石川紗彩

松岡五兄弟

松岡鼎・井上通泰

第91話



〜福岡の身近にある歴史を掘り起こそう〜
松岡鼎と井上通泰
―『松岡小鶴女史遺稿』の編纂―

神戸大学大学院人文科学研究科 特命講師 井上 舞

を加え「小鶴女史詩稿」としてまとめています。

松岡五兄弟の祖母・小鶴は、夫・至と離縁した後、女性ながら独学で学問に励み、一人息子の操を教育しました。その甲斐あって、操は加古郡安田(現・加古川市尾上町)の医師・梅谷左門の私塾に入門し、次いで仁寿山(姫路藩の藩校・好古堂)へと栄転します。辻川に残っていた小鶴は、この間、我が子を叱咤激励する漢文の手紙を送り続けました。そして、それらの手紙を整理し、自序(著者自身が序文を書くこと)を付して「南望篇」という詩文集を編んでいます。

さらに安政2年(1855)、操は「南望篇」とこれ以外の小鶴の詩文・手紙を清書し、識語(書籍を書写・入手した由来などを記すこと)

松岡家にはこのときの校正原稿が残されています。通常、印刷物を作成するときには、原稿を用意し、これを「製版」し、必要に応じて加筆・修正する「校正」を経て出来上がります。「広報くさき」も同じ工程で作られています。つまり、校正原稿が残っているということは、「遺稿」が作られた過程がわかるという

ことです。

松岡家に残っていたのは、①完成稿(印刷に回す前の最終の原稿)②原稿用紙に書かれた直筆原稿(「南望篇」の自序など)、③見本組(レイアウトを確認するために作成する組版)と目次など直筆原稿との綴、④初校(前半・後半各一部)、⑤小鶴肖像図版です。これらは一括で、通泰が鼎に宛てた封筒に納められていました。

校正指示の筆跡を見る限り、編集を主に担ったのは、通泰のようです。通泰は『万葉集新考』をはじめ、多くの著作を残しており、編集作業に慣れていたのでしょう。

これらの資料から作業手順を推測すると、まず「小鶴女史詩稿」や直筆原稿を元に、印刷会社が見本組を作成し、ここから文字数や行数などを調整してレイアウトを確定させます。これを受けて、印刷会社が版を組んで初校を作成。

返ってきた初校を松岡家側で確認し、誤字脱字や活字のサイズの変更などを修正してもらい、という流れであったようです。

②を見てみると、「南望篇」の自序を写した直筆原稿には朱筆で返り点が付されています。「小鶴女史詩稿」の自序は白文(漢文の原文)だったので、読みやすくするために、こうした変更を加えたのでしよう。また、④の初校は修正箇所が多かったようで、たくさん修正指示が書き入れられています。冒頭に「要二校」とあるため、初校を修正した原稿(二校)も作られたはずですが、現在のところ、二校は確認されていません。

鼎と通泰が生まれた頃、まだ小鶴は健在で、二人は祖母から基本的な読み書きを教わっていたようです。そんな二人にとって、この編集作業は他の兄弟たちよりも思い入れの深いものだったのではないのでしょうか。

なお、当時國男は「浪人をして旅行ばかりしていた」ために、この企画には加わっていません。國男が官僚を辞し

たのは大正8年のこと。翌年に朝日新聞社客員、その翌年には国際連盟委員統治委員として渡欧しています。何かと慌ただしい日々を送っていたために、編集に関わることをしなかったのでしょう。

ところで『遺稿』は、「杏林舎」が組版・印刷を手がけています。杏林舎はもとと吐鳳堂という医学書専門の出版社が開設した活版印刷所です。後に創業者の田中増蔵が、吐鳳堂とは別に聚精堂を創業し、ここで医学書以外の書籍も取り扱うようになります。

聚精堂は、柳田國男の初期の著作『遠野物語』(自費出版分)、『石神問答』などの印刷・販売を手がけていました。兄弟たちが『遺稿』の印刷を杏林舎に依頼した背景には、こうした繋がりも関係していたと考えられます。



『松岡小鶴女史遺稿』の見本組